水稲の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html

第　４　報
千葉県農林水産部
令和３年６月２９日

４月植付け「コシヒカリ」は穂肥の時期を迎えます。

５月植付け「コシヒカリ」の幼穂形成期は早まっています。

［ 生育概況 ］

６月上中旬は、気温・日照ともに高く推移したことから、５月植えの「コシヒカリ」の生育が進んでいます。４月 20 日に移植した「コシヒカリ」は６月 20 日頃（平年より２日早い）から幼穂形成期を迎え、追肥時期となっています。また、５ 月 １ 日に移植した「コシヒカリ」は６月 24 日頃（平年より４日早い）から幼穂形成期となります。４月 20 日に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は、出穂期 15～10 日前の冷害危険期に入っています。

低温に弱い飼料用米の「アキヒカリ」「夢あおば」を４月に早期移植した場合は、冷害危険期が６月下旬から７月上旬になります。低温が予測されたら深水で管理しましょう。

表１　品種別の生育状況（６月２５日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進度※2	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	４月 20 日	並	並	並	並
ふさこがね	４月 20 日	並	並	並	並
コシヒカリ	４月 20 日	並	並	並	やや淡
	５月　１日	やや早	並	並	並
粒すけ	４月 20 日	並	並	並	やや濃

※１　平年比は過去 10 か年（2011～2020 年）の平均値との比較。
　　ただし、「粒すけ」は過去６年（2015～2020 年）のデータとの比較。
※２　幼穂形成期の実績値および予測値により判断

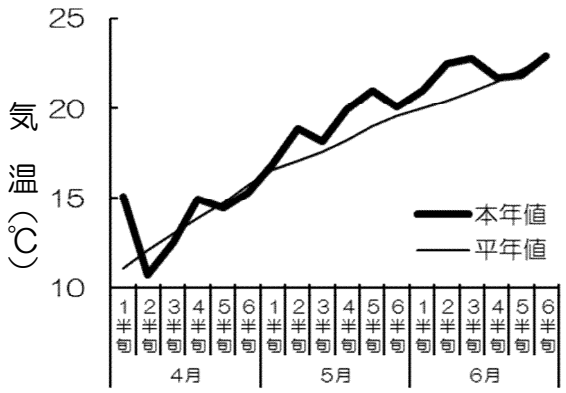

図 １　日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

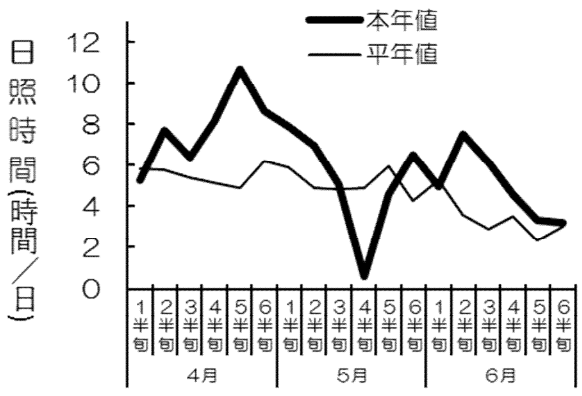

図 ２　日照時間の推移（アメダス、佐倉）

［ これからの管理のポイント ］

■穂肥の実施

表２　品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北（香取市）	九十九里（茂原市）	内湾（千葉市）	県南（館山市）	
コシヒカリ	４月20日	６月23日	６月21日	６月20日	６月20日	幼穂形成期７日後頃～１５日後頃の間【幼穂長１ｃｍ～８ｃｍ】
	５月 １日	６月27日	６月25日	６月24日	６月24日	
	５月10日	７月２日	６月30日	６月29日	６月29日	
粒すけ	４月20日	６月23日	６月20日	６月19日	６月19日	幼穂形成期７日後頃【幼穂長１ｃｍ】
飼料用米（アキヒカリ）	５月15日	６月24日～				幼穂形成期５日前頃～幼穂形成期５日後頃（ただし、最高分げつ期に葉色が低下した場合は、すぐに追肥）
飼料用米（夢あおば）	５月15日	７月１日～				

（※）幼穂形成期は、水稲作柄安定対策調査結果の実測値及び生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。ただし、飼料用米は、水稲作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表２）を参考に、穂肥を施用しましょう。各品種の 10a 当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各３kg（「コシヒカリ」「粒すけ」は房総南部の粘質土で窒素成分を２kg）です。

近年、秋の長雨・台風により倒伏がみられます。「コシヒカリ」は、幼穂形成期の目標生育量（表３）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素と加里を成分量で 10a 当たり各３kg（ただし、たい肥を施用している場合は、窒素のみ３kg）が目安となります。

表３　幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色（SPAD値）×茎数（㎡当り）	カラースケール値（※）3.5	4	4.5	草丈（cm）	予測される生育・収量	対策 穂肥加減	穂肥時期	倒伏軽減剤
	おおよその茎数（㎡当り）							
16,000以下	560以下	490以下	440以下	70cm未満	籾数が不足し、やや減収	増肥、または時期を2～3日早める。		×
16,000～20,000	560～700	490～600	440～550	70cm未満	目標どおりの生育が期待	標準量	標準	×
				70～80cm	籾数確保のため穂肥は必要稈長が伸び、倒伏が心配	標準量	標準	必要
20,000～27,000	—	600以上	550以上	75cm未満	籾数過剰となり、乳白米の発生が心配	減肥（窒素施用量1～2kg／10a）して時期を遅らせるか、または無施用。		×
				75～82cm	稈長が伸び、倒伏が心配	×	×	必要

（※）カラースケール値とおおよその茎数（㎡当り）の対応は、SPAD 値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

■ 中干し後の水管理（用水を大切に）

○出穂前後は湛水管理、低温時には深水管理

中干し後は「間断かんがい」を行い、出穂期 3 週間前から出穂期 2 週間後までは「湛水管理」を行います。（自然由来のカドミウムの吸収を抑えるための技術です。）

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため「深水管理」にします。（表４を参照）

飼料用米の「アキヒカリ」「夢あおば」は耐冷性が弱いため、特に注意しましょう。

表４　冷害危険期予測（冷害危険期は記載日から６日間）

品種	植付時期	県北（香取市）	九十九里（茂原市）	内湾（千葉市）	県南（館山市）
ふさおとめ	４月20日	６月27日	６月24日	６月23日	６月23日
ふさこがね	４月20日	６月28日	６月26日	６月25日	６月25日
コシヒカリ	４月20日	７月３日	７月１日	６月30日	６月30日
	５月１日	７月７日	７月５日	７月４日	７月４日
粒すけ	４月20日	７月３日	６月30日	６月29日	６月29日
飼料用米(アキヒカリ)	５月15日	７月４日～			
飼料用米(夢あおば)	５月15日	７月11日～			

■ 斑点米カメムシ類の防除

○畦畔の草刈りは出穂期２週間前まで

出穂期前後の草刈りは、斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込んでしまい、斑点米の発生につながります。畦畔雑草の刈り取りは出穂期２週間前までに済ませましょう。

表５　品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測（※）			
		県北（香取市）	九十九里（茂原市）	内湾（千葉市）	県南（館山市）
ふさおとめ	４月20日	７月12日	７月９日	７月８日	７月８日
ふさこがね	４月20日	７月13日	７月11日	７月10日	７月10日
コシヒカリ	４月20日	７月18日	７月16日	７月15日	７月15日
	５月　１日	７月22日	７月20日	７月19日	７月19日
	５月10日	７月27日	７月25日	７月24日	７月24日
粒すけ	４月２０日	７月18日	７月15日	７月14日	７月14日
飼料用米(アキヒカリ)	５月１５日	７月19日～			
飼料用米(夢あおば)	５月１５日	７月26日～			

（※）出穂期は、生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。
ただし、飼料用米は、水稲作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

○斑点米カメムシ類の防除適期は「穂揃期」と「出穂期 15 日後頃」

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稲の出穂後に水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「出穂期 15 日後頃」です。

大型の斑点米カメムシ類は、飛来成虫よりも孵化幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

また、カスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。開頴籾（割れ籾）が多い年では、被害が多くなる場合があります。

出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、必ず発生状況を確認します。

○飼料用米ほ場における防除

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

農薬は、稲用に登録されている薬剤を使用することができますが、籾米のまま出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。ただし、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められていますので、（独）農林水産消費技術センターの最新情報を確認してください。

■ いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

いもち病は、止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除をしましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期１０日前までに、薬剤防除をしましょう。

紋枯病は、茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。近年では飼料用米栽培で発生が多いので発生状況を確認しましょう。

表６　いもち病、稲こうじ病、紋枯病の主な防除薬剤

病害名 / 薬剤名	いもち病	稲こうじ病	紋枯病
ダブルカットフロアブル	○予防・治療		
ノンブラス 粉剤 DL／フロアブル	○予防・治療	○	
ブラシン 粉剤 DL／フロアブル	○予防・治療	○	
カスミン 液剤	○治療		
バリダシン 粉剤 DL／液剤 5			○
モンカット 粒剤／フロアブル			○

（※）農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

次回の「水稲の生育状況と当面の対策」は、７月１４日に発行予定です。